



(写真提供：一般社団法人 茨城県観光物産協会)

今月の1枚

筑西母子島遊水地と筑波山

筑波山のビューポイントとして有名な母子島（はこじま）遊水地。

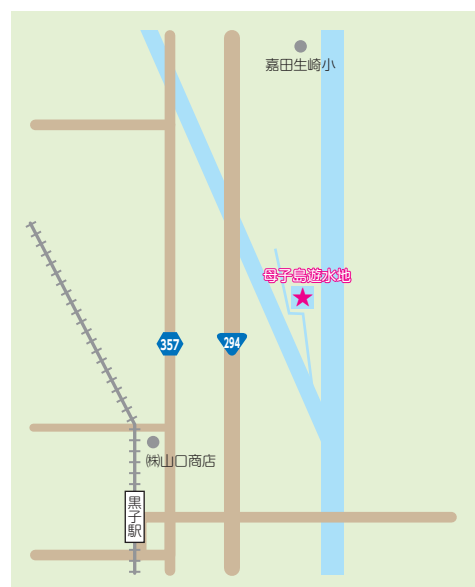
この池に映る「逆さ筑波」、そして10月後半と2月後半に筑波山頂と日の出が重なる「ダイヤモンド筑波」は、写真愛好家ばかりでなく、多くの人のこころを癒してくれる絶景として親しまれている。

1986（昭和61）年8月、大きな勢力を保ったまま関東地方に上陸した台風10号は、24時間で300mmを超える雨量を記録するほどの大豪雨となって小貝川流域を襲った。150年に一度の大洪水といわれたその被害は、下館市（現筑西市）の面積の4分の1を泥水の海に変え、下流の下妻市、石下町（現常総市）にまで及んだ。

観測史上最悪の被害を受けた小貝川は、同年9月、建設省（現在の国土交通省）の直轄河川敷激甚（げきじん）災害特別緊急事業（通称・激特事業）が行われた。

なかでも総事業費208億円、工期5か年という母子島遊水地の建設は、地区内に点在していた5つの集落（母子島、飯田、一丁田、椿宮、小釜）を集落ごと集団移転させ遊水地内に新たな安全なまちをつくるという、全国でも初めての大規模事業であった。

集団移転によってできた跡地を含む160㍍が堤防で囲まれた遊水地のはたらきは、洪水によって小貝川が増水した際に500万㎡の水を導き入れ、溜め込むことにより洪水を防ぐことができるようになり、災害に強いまちとなった。



- ◆ 関東鉄道常総線「黒子駅」より車で約8分
- ◆ 常磐道「土浦北IC」より車で約45分、北関東道「桜川筑西IC」より車で約35分